

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	0 1 7 0 4 0 0 6 4 2		
法人名	サッポロ・ライフケア株式会社		
事業所名	グループホーム 虹の家 琴似		
所在地	札幌市西区八軒3条東2丁目2-12 (電話) 0 1 1 - 6 1 2 - 6 0 2 0		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年11月17日	評価確定日	平成20年11月26日

【情報提供票より】 (平成 2 0 年 1 1 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 1 4 年 7 月 1 6 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算5.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1.2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~49,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費: 22,000円 暖房費: (10~3月): 5,000円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 365 円
	夕食	365 円	おやつ 104 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (1 1 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76.8 歳	最低 74 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮の沢ファミリークリニック・静和記念病院・宮本歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム虹の家 琴似」は閑静な住宅街にある。利用者は近くの公園や周囲を散歩し近所の人と会話を楽しんでいる。運営者は「いとおしみ支えあう心のケア」を目標に、楽しく、安心して過ごせるような暮らしの場を提供し、管理者と職員は一人ひとりの望みを探し、叶えられるように日々、取り組んでいる。利用者が誇りをもって日常の動作が続けられるように、繰り返し声かけ、促しで、その力を引き出すための自立支援に心を注いでいる。生活の場面に仕掛けを作り、スムーズに動けるような声かけや一緒に行うことで満足感が得られるように配慮しており、ホーム内外の至る所に置いた観葉植物や、花を育てる楽しみは生活に彩りも添えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 外部4)
	前回、外部評価の取り組みとして、理念の表現、職員辞職などの報告、看取りに関する方針、食事中の工夫などは具体的に進めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4)
	自己評価は前回と同じように全員で取り組んだ。自己評価、外部評価で取り上げた改善点はミーティング等で検討し進めており、職員は自己評価をする中で、自分自身の関わりを見直す機会と捉えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的に開催しており、「虹の家だより」を参加者に渡し、ホームの運営状況や利用者の暮らしを報告している。会議では防災訓練を報告し、今後は夜間を想定し住民の協力を得ての訓練を検討している。会議での情報交換や意見などは運営に役立っている。ホーム行事への協力、当ホームの見学などの交流を通して、認知症に対する住民の理解も深まっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8)
	毎月発行の「虹の家だより」で、ホームでの暮らしを詳細に報告し、ホームページでもパスワードで閲覧できるようにしている。家族の来訪時には状況を説明し、その際には信頼関係を軸にどんなことでも話し合えるようにしている。ホームの行事やイベントには家族と一緒に楽しむ機会をつくり、コミュニケーションを図る中で意見を聞きだすように努めているが、さらに率直な意見を吸い上げられるような工夫を考えているところである。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3)
	町内会の行事や活動に参加し、地域の高齢者を対象にした「福まちお楽しみ会」には利用者の場所を配慮してもらうなど、住民との関わりも深まってきた。ホーム主催の「七夕夏まつり」や「フリーマーケット」には、地域の子供も参加し交流を楽しんでいる。利用者は散歩中に挨拶を交わし、道路の草むしりやゴミいなどをして地域に関わっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気のなかで、「とぎれない心をこめて、一人ひとりの生活を支える」内容の理念を掲げている。地域の住民と日常的な交流を深めているので、その内容を加えた理念の文言を検討しているところである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見易い所に掲げ、理念とケア重要目標を記載したカードを携帯し、意識的に取り組み共有している。申し送りやミーティングの中で、利用者が安心して過ごすための健康と暮らしの支援を常に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事や活動に参加しており、地域の高齢者を対象にした「福まちお楽しみ会」には利用者の場所を配慮してもらうなど、住民との関わりも深まってきた。また、ホーム主催の「七夕夏まつり」や「フリーマーケット」には、地域の子供も参加し交流を楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は前回と同じように全員で取り組んだ。自己評価、外部評価で上げた改善点はミーティング等で話し合い、取り組みを具体的に進めている。職員は自己評価をする中で、自分自身の関わりを見直す機会と捉えている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催しており、「虹の家だより」を参加者に渡し、ホームの運営状況や利用者の暮らしを報告している。会議では防災訓練実施の報告、また地域やホームの行事の感想などについて、参加者と意見交換をする中で運営に役立てている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市、区には総務部長が頻繁に訪問し、事務的な報告や相談をしている。管理者は運営推進会議、区のグループホーム管理者会、市開催の研修会などに参加はしているが、訪問して担当者と話し合う機会はない。	○	事業所として、市・区との連携は十分に行われているが、管理者も時には挨拶がてら出向き、市・区の担当者と共にサービスの質の向上に取り組むことにも期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の「虹の家だより」で、ホームでの暮らしを詳細に報告し、ホームページでもパスワードで閲覧できるようにしている。家族の訪問は多いので、その都度状況を説明し、遠方の家族には電話や便りで伝えている。金銭管理も適切に処理し毎月送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、信頼関係を軸にどんなことでも話し合えるように注意を払っている。行事やイベントに家族を誘って、一緒に楽しむ機会をつくり、コミュニケーションを図る中で意見を聞きだすように努めているが苦情、意見などは少ない。	○	家族の率直な意見を吸い上げる方法を検討中とのことで、さらなる工夫で関係を深めることに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、新規採用は「虹の家だより」に載せている。辞職については家族の来訪時に報告している。利用者には寂しい思いを与えないように触れないでいたが状況を見ながら本人にも伝える方向で考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は外部の研修情報をとり、職員の育成に意を注いでいる。必要な研修費用は会社負担にして、緊急時の対応、看取り、口腔ケアなどの医療的な知識や認知症に関する対応、ケアのレベルアップ研修など、参加の機会を作っている。内容はミーティングでの報告や閲覧などで全職員が共有している。	○	本部からの情報をもとに、参加を調整しているが、運営者、管理者、関係者で職員の段階に応じた年間計画を考えたいとのことなので、それに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の「グループホーム管理者会」に管理者は積極的に参加している。そこで企画している勉強会や交流会に職員も参加し、サービスの質の向上に役立てている。以前に近くのグループホームを見学したが、その後、途絶えているので相互間の行き来を考えているところである。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気を知り、本人が納得して入居できるように入居前の見学を勧めている。入居後は環境に馴染めるように会話を多くし、リーダー的な利用者に関わりをお願いし、会話やレクリエーションを通して利用者の輪の中に自然にとけこめるような配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	居室の掃除・衣類の整理など、できる所を支え利用者の自立面を大切にしている。職員も一緒に行い、昔の話や何気ない言葉から情報を得るなど、共に過ごしながら教わっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者のやりたいことを探し出し、叶えられるように職員全員で話し合っている。意思表示が困難な利用者にはセンター方式や家族の情報をもとに本人の思いに近づけるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族の要望、職員の情報、医療機関の情報を集約してケアマネジャーが原案を作成し、これを月例の会議（ケアカンファレンス）に諮って案を作成し、家族の承認を得て計画とする。アセスメントはセンター方式を用いて行っている。本人には理解の状況に応じてケアマネジャーから説明をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的な見直し期間を3ヶ月とし、その間、健康状態の変化や介護度の変更があった際などには随時の見直しを行っている。身体機能だけでなく、安らぐ生活、楽しい生活、生きがいを持つ生活など、精神的に安心できる具体的な計画となるよう取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、看護師による点滴なども行いながら入院回避を実現している。終末の看取りを行った実績もある。必要に応じて通院や買い物の送迎もしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの利用者はホームの協力医療機関の受診を希望する結果となっているが、他の医療機関の受診を希望した場合や、その必要がある場合は家族と相談しながら通院の送迎の支援を行いつつ、病院の相談員とも連携をとりながら事業所との関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重要事項説明書」に「重度化した場合の対応にかかる指針」を設けて、入居の時点で話し合い、確認を行っている。この中には看取りに関する指針も含められているが、具体的内容は個別に相談しながら改めて指針を作成することとなっている。	○	看取りについては既に実施した実績もあり、可能な態勢にはなっているが、さらにすすめて、事業所の方針を明確にした上で、個々の利用者・家族との間で早い段階から話し合いをし、方針を確認するよう、期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	すべての職員が個人情報保護法の理解に努め、個人情報の含まれる書類は場所を定めて、外から見えないところに保管している。トイレ誘導や失禁を発見したときも言葉を選んで声をかけ、禁止語、命令語、幼児語など禁句についても厳しく戒めている。	○	受付簿は、一覧形式で玄関に設置しているが、他者への露見を避けるため、個別のカード式などに改めるよう、期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や服薬など、最小限必要なことを除いて、日課は本人の自由で、本人のペースに合わせた支援を行っている。買い物や散歩に出かける希望があれば一人でも可能な限りすぐ対応し、不可能でも、可能な時間を提示して、拒絶はしないようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、好き嫌いがある人には調理法を変えたり、代替したりと、その人に合わせた工夫をしている。利用者はここの食事を気に入っており、楽しみにしている。職員は場所の狭さや業務の都合で別に食べているが、一緒に食べられるよう、改善策を検討中である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきに、午後1時から4時までの間に実施し、一人につき最低週2回は入れるように計らっている。入浴をおっくうがる利用者も、上手に誘導して、入れば喜び、楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者各人に応じて、洗濯物干し、食器洗い、掃除、ふきん縫いなどの役割を分担し、昔作った塩辛、おかから料理、漬物などで、できる力を最大限に活かしている。ゲームや飾り物作り、習字、フラダンスやギターのリコーンティア来訪などを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は毎日でも、近くの公園まで散歩に出かけている。車椅子の人もできるだけ外に出て気分転換やストレス発散ができるようにしている。花見に出かけて外食をしたり、冬は雪祭りを見に行ったりして外出を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にブザーを付けているが、日中鍵はかけていない。かつてあった階段の降り口の防護柵も外している。利用者の行動は見守りとブザー音で察知し、外出しそうなときはさりげなく声をかけ、気分転換を促し、職員と一緒に行動する。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	区の消防署の協力を得て、消火訓練や避難訓練を、職員全員が参加して年に4～5回、定期的に行っている。訓練には関心のある近隣住民も時折参加している。管理者が防火管理者資格を取得している。年2回の自主訓練も行っている。	○	夜間想定訓練も実施するよう期待したい。町内会に加入したことでもあるので、近隣住民の災害時救援協力、訓練参加を、運営推進会議を通じて呼びかけることを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の材料は、献立メニューと一緒に専門業者から取り寄せている。カロリーや栄養バランスは業者所属の管理栄養士が管理している。24時間チェック表で食事摂取量や飲水量を記録し、必要な補充を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、リビングなどの共用空間の壁や棚には色とりどりの紙工作の装飾品や花、人形などが所狭しと飾られ、季節感のある、華やいだ明るい雰囲気を作り出している。にぎやかな中にも整頓が行き届いていてすがすがしい。階段は良いリハビリの装置にもなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は日中の大半の時間を居間で皆と一緒に過ごし、部屋にいたことはあまりないといながら、室内には家具、装飾品、テレビ、写真、壁の展示などが豊富に揃い、それぞれ個性的な、暖かい居室となっている。職員が程よく手をかけて配慮をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。